

Newsletter

日本 IPBA の会

お問い合わせ: IPBA 事務局 〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー7 階
Tel: 03-5786-6796 Fax: 03-5786-6778 E-mail: ipba@tga.co.jp Website: www.ipba.org

IPBA 第 19 回 マニラ大会

2009 年 4 月 29 日 IPBA 第 19 回 マニラ会議



IPBA マニラ大会の感想 2010 年シンガポール大会から 2011 年 京都/大阪大会に向けて

IPBA 副会長
国谷 史郎 (大江橋法律事務所)

1. マニラ大会

私は、IPBA 理事会、役員会等に出席するため、皆さんより一足早く 4 月 27 日にマニラ入りした。出発直前にメキシコ発の豚インフルエンザがその感染地域を急速に拡大していること、死亡率も(当時の発表では)かなり高いことなどが報道されマニラ大会自体がかなり混乱するのではないかと不安がないわけではなかったが、もともと体力には自信のある私は躊躇なく飛行機に乗り込んだ。たださすがに機内ではマスクを着けていた。

リーダーズ・ミーティング、役員会、理事会等を順調に終え、皆さんが集まるレセプションから IPBA の大会本番となった。残念ながら悪天候のため、プールサイドでのパーティは急遽屋内でのパーティへと変更されたが、久しぶりに見る顔に話が弾み、酒が進んだ。レセプション後の恒例のジャパン・ナイトで

日本人グループと日本に関心のある一部外国人グループが参加し本当に楽しいお酒が飲めた。外国に行くと日本人同士でお酒を飲むのも変な感じではあるが、むしろ日本ではお会いしにくい日本の弁護士と外国で会う楽しみも格別である。大会初日からワインその他のドリンクがかなり進んでしまった。

プログラム第 1 日目の午前中には、アロヨ大統領自らがスピーチをされた。小柄だがテレビで見るとはるかに堂々として印象的なスピーチだった。スピーチが終わった後も出席者の多くと丁寧に握手をかわしながら退席する姿に親しみが持てた。私の周りでも多くの人が握手を求めて大統領の方に移動した。2011 年日本での年次総会の準備のため下見に来ていたコンフェランスオーガナイザーの「コングレ」の人も握手をし感激していた。

大会のプログラムのいくつかに参加した。紛争解決・仲裁委員会の外国判決、仲裁判断の執行に関するもの、アジア地域における政府役人の汚職と海外投資との関係のプログラム、米国を中心とした訴訟における Eディスカバリーへの対応のプログラムなどは、私の実務でもよく問題となるもので、各国の弁護士がどのように認識し対応しているのかを見る意味でも興味深かった。私が出席したプログラムはいずれも出席者が多く、皆熱心に聴き、また質問などの議論も盛り上がっていた。フィリピンの元最高裁判所の裁判官が相当高齢にも関わらず熱心に質問し、議論に参加されていた姿には感動的なものがあった。当地ではかなり有名な法曹であるとのことであった。

プログラム後は毎夕、コンベンション・センター等でディナーが催されたが、多人数のため、ある程度仕方がないとしても食事が少し単調だったのは残念であった。私の滞在最終日の土曜日には、かつて日本で研修していたフィリピンの検察官にマニラの高級レストランに連れて行ってもらった。彼の勧める料理はいずれも大変美味しく、フィリピンの料理に対する私の認識がかなり変わった。素材と調理の仕方と同じ料理でもこれくらい違うのかと驚くほどであった。彼には高級住宅地やショッピングモールなども案内してもらったが、一番整った地域だけを見ていると東

京の真ん中を歩いているのではないかと錯覚するような雰囲気だった。

2. 2010 年シンガポール大会へ向けて

来年の大会はシンガポールで開かれるが、そのホストコミッティの中心となる Fern Suet Lee さんがいかにシンガポールの大会が素晴らしいものになるかを役員会、理事会、総会などで何回も本当に熱弁したのが印象的だった。

実は、マニラに行くまで、初代 IPBA 会長であった濱田邦夫先生のサジェスチョンもあり、また 2011 年京都／大阪大会は、京都プロトコルが採択された有名な会議場で行われることもあり、地球の温暖化防止など環境問題をテーマとし、アル・ゴア元米国副大統領を呼ぶことも検討していたのだが、シンガポールのテーマは”Climate Change”で、アル・ゴア氏を実際に呼ぶ契約を締結したと聞かされ、大変驚いた。偶然とは言え、全く同じようなことを考えていたが、先を越された。方針は 180 度変更せざるを得ないと感じた。

シンガポール大会では、リー・クワンユー元首相(シンガポール建国の父で、現在も顧問相として大きな影響力を持つ)もスピーチをされる予定です。シンガポールの会場は、新しく開発するマリーナ・ベイの高層ビルが3棟連なった印象的な施設を利用して行われる予定で、何か国家プロジェクトのような雰囲気となっている。Fernさんの義父はリー・クワンユー、義兄は現在のシンガポール首相であることを考えれば、IPBA の年次総会が国をあげてのプロジェクトの様な雰囲気になってしまうのもうなずけないこともない。

シンガポールのホストコミッティのメンバーは、日本を始め、主要国でシンガポール大会のプロモーションのために各地でセミナーや夕食会を行うと言われており、日本でも東京と大阪で 11 月頃行うことが予定されている。私とはほぼ毎朝ホテルのジムで顔を合わせる元気溼刺とした Fern さんのバイタリティにはいつも感心させられるが、IPBA のためにもぜひ協力したいと思っている。

3. 2011 年京都／大阪大会

大会最終日の年次総会で 2011 年に日本で年次総会が開かれること、私が副会長に選任されることが正式に承認、報告されました。私は、三宅先生、濱田先生を始めとする多くの諸先輩方の意気込みと熱意、IPBA の温かい人間関係等、独特な雰囲気に動かされ、第 1 回大会以来毎年欠かさず年次総会には出席してきた。大阪のアットラージカウンセル、紛争解決・仲裁委員会の副委員長、委員長、コミッティ

コーディネーターなど色々な役職も経験させて頂きました。正式に 2011 年の大会が京都／大阪で開催されることになりましたので、IPBA をより充実させるためにできるだけ努力をさせて頂きたいと思っています。

約半年前から大阪の弁護士を中心として月 1 回準備会を開いてきています。間もなく東京・大阪・京都合同キックオフミーティングを開く予定です。開催場所は、上記でも少し触れましたが、環境問題で有名な京都プロトコルが採択された京都国際会議場です。この施設は国立で緑溢れる山に囲まれ、宝ヶ池を前面に配した、洛北の環境に恵まれたところに位置しています。この会議場では数々の有名な国際会議が開かれ多くの歴史が創られてきました。京都でのゴールデンウィーク中のホテルの予約等は大変難しいので 4 月 21 日から 24 日で施設の予約を入れています。

現在の経済状況がどのようになるのかをもう暫く注視し皆さんのご意見もお聞きしながらメインテーマとしてふさわしいものを選定していきたいと考えています。

シンガポールにアル・ゴア氏と”Climate Change”を先取りされましたので、京都らしく、日本の歴史、文化、産業などを十分に意識した日本ならではの演出とプログラムが組めればと考えています。シンガポールが 1000 人を目標とする以上、日本での京都／大阪大会も 1000 人以上を目指したいと思います。そのためには、東京、大阪、京都を中心とした弁護士の会員を増員し、より多くの人に参加して頂かなければなりません。会員の皆様方のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

過去 2 回の日本での大会はいずれも東京で行われてきましたが、先輩方の努力と皆さんのご協力で盛会でした。今回は初めて東京を離れ、京都の地で行われることとなりますが、東京の皆様方の協力は不可欠です。細かいアレンジと地元で必要なことは大阪、京都の弁護士を中心としてできるだけのことさせて頂きたいと考えています。私は毎週東京と大阪を行き来しておりますのでまた皆様に直接色々お願いさせて頂きたいと思っています。ご協力をよろしくお願い致します。



撮影: 国谷 史郎

2009年IPBA マニラ大会の思い出

弁護士 豊島ひろ江 (中本総合法律事務所)

1 三度目のIPBA

私は、2年前の北京大会、昨年のLA大会に参加し、今回のマニラ大会でIPBA年次総会への参加は3度目となりました。毎回、開催国が趣向を凝らすセッションやイベントが楽しみなのですが、今回のマニラ大会も、フィリピンらしく楽しい大会であったと思いました。来るべき2011年IPBA京都/大阪大会に向けても、大変参考になりました。

2 マニラの熱い夜

マニラ大会では、ウェルカムレセプションパーティーに始まり、ポストカンファレンスパーティーに至るまで、4日4晩、Music & Dancing で盛り上がったように思います。スペインやアメリカ文化の影響なのか、フィリピン流は参加型ダンスがメインで、日本人としては躊躇するところでした。ですが、二晩目のConference Galaで、女性歌手によるリードで一部の参加者がパフォーマンスを披露してからは、何となく雰囲気ができ、最後にはインストラクターの指南付きで、残った全員が(いつのまにか私も)、ホールで楽しく踊って盛り上がりました。おそろべしマニラ大会です。その後も毎晩、ガンガンと鳴り響く音楽の中、結局マニラの夜は踊り明かしてしまいました。私の知る限り、一緒に踊っていた参加者には参加型ダンスは大変好評で、京都/大阪大会でも企画した方が良いのかしらと真面目に考えてしまったくらいです。

3 おもてなしの心

開催地国の参加者は比較的多いのだと思いますが、マニラ大会では、フィリピン人の方と非常に仲良くなりました。多くの人が、人なつっこく、楽しく、かつ親切です。オフィシャルパーティの後に飲みを連れて行ってくれる人がいたり、「せっかく、マニラに来たから」とマカティシティへショッピングツアーに連れて行ってくれる人がいたり、大変お世話になりました。スペイン系の血が入っていると思われるフィリピン女性弁護士さんは、(同性から見ても)とっても美人でかわいらしく、そんな彼女からは、最後の日にお土産など頂いて、もう胸キュンです。こうした開催地の参加者からおもてなしをいただき、是非、京都/大阪大会でも、参加者の方に日本を楽しんでいただけるおもてなしをしたいと強く思いました。

4 マニラ市での課外セッション

マニラ大会では、地元の企業を見学に行くセッションがあったことをご存じだったでしょうか。Maritime Law Committeeによる企画で、マニラ市内のMagsaysay Shipping Company Seafarers Training Centerを訪問し、世界で活躍するフィリピン人船員のトレーニング施設を見学しました。私はMaritime Lawについては全く無知でしたが、同コミッティーの山口修司先生にお誘いいただき思い切って参加しました。参加者の多くはMaritime Law Committeeのメンバーでしたが、中には私のように「遠足」気分でのバスツアーに参加した人もいました。

このセッションでは、フィリピンが豊富な人材を育成して海外に派遣していること、日本の船舶会社にも9000人もフィリピン人船員が派遣されていることなどを知りました。非常に興味深く、私には文字どおりの社会見学として貴重な経験でした。会議形式のセッションも良いですが、このような課外企画は、各国事情を知る上でとても意義があるように思います。今後もこういった企画があれば是非参加したいですし、京都/大阪大会でも企画できないかしらと思います。

5 マニラ大会での反省

楽しんでいただけではなく、マニラ大会でも、もちろん、室内セッションにも真面目に参加しました。私は、大阪弁護士会の渉外実務研究会のメンバーとして、帰国後にIPBA大会の報告をするという使命がありましたので、面白そうなトピックのセッシ

ョンに参加をして、各国の法制度などの情報収集に努めました。

ただ、セッションでは、どうしても受け身になりがちです。今回のマニラ大会では、「今年は3度目だし、参加者が少ないセッションでは(英語で)質問をしてみようかしら・・・。」とちよっぴりは考えたのですが、生来の恥ずかしがり屋から、やっぱり質問することができませんでした。そもそもスピーカーが何を言っているのか良くわからないという致命的な問題があるものの、いつまでもそれを言い訳にしているのは、IPBAを創設した偉大なる日本人先輩弁護士に対して、大変申し訳ない・・・と最近になって反省しています。来年のシンガポール大会、いえ、遅くとも京都/大阪大会には、きっと・・・。

6 2010年シンガポール大会

私のような控えめな日本人を尻目に、今年のIPBA大会では、参加者としてはもとより、セッションのスピーカー・質問者としても、シンガポール人(特に女性)の活躍が際だっていたように思います。仲良くなったシンガポール人女性の弁護士さんも、明るくて、才色兼備で、大変魅力的です。世界知らずの私は、マニラ大会で、パワフルなシンガポール人気質を知ることになりました。

とりわけ、2010年シンガポール大会のホストコミッティによるプロモーションは、気迫に満ちていました。ホストコミッティの強い意気込みが感じられ、自然と期待がふくらみます。来年のシンガポール大会は、間違いなく、素晴らしいIPBA大会になるだろうと、今から大変楽しみにしています。

7 来るべき京都/大阪大会に向けて

シンガポール人ほどではないものの、マニラ大会では、私もあちこちで、「2011年の京都大会に来てね。」と、2011年京都/大阪大会に向けて、小さな宣伝活動を行いました。約98%の人からは、「京都大会に参加する！」と即答いただき、嬉しいやら、プレッシャーやら、です。すでに、関西地区では、国谷史朗先生の強力なリーダーシップのもと、2年後に向けて、組織委員会が始動しています。私も、微力ながらお手伝いしています。

今回のマニラ大会を含め、これまで参加した各地のIPBA年次総会では、開催地毎の楽しみを満喫することができました。京都/大阪大会も、日本らしさにあふれる大会にしたいものだと考えています。

IPBA 年次大会に初めて参加して 弁護士 小林 和弘 (きっかわ法律事務所)

私が所属していますきっかわ法律事務所としては、三日月先生との関係で、LAWASIAの方が、深い関係にあるようですが(実際に他の弁護士がどの程度活動しているかは知りませんし、私としては東京大会の資金集めのセミナーに関与させていただいただけであります)、事務所の他の弁護士からは、「小林君はビジネスオリエnteidだから、IPBAに入ったら」と勧められたこともありましたが、しかし、怠惰な性格も災いして、2003年に大阪で開催された大阪セミナー”STRATEGIC TRANSACTIONS IN THE ASIA-PACIFIC: CHALLENGES AND OPPORTUNITIES”に参加しただけで、IPBAに対して特に積極的に参加せずにおりました(現在、IPBA参加費用は自己負担で、対税効果は他の事務所メンバーにも帰属するのに対して、当時は、IPBAに参加した費用は全て自分自身の対税効果として帰属したので、参加しておけば良かったと後悔しています)。

この度、国谷先生から、2011年のIPBA京都/大阪大会の事務局に加わってほしい旨依頼され、常日頃から尊敬しています国谷先生のご依頼でありましたので二つ返事で引き受けさせていただきました。本年のマニラ大会からIPBAの年次大会に出席させていただくことになったのです。そこで、年次大会のホストとしての目から、今回の大会を振り返りたいと思います。

実は、今年の年次大会は、私にとってはトラブル続きでありました。あまり、このことを書くと、IPBAの年次大会に参加することをやめようと思う人がいるかもしれませんが、他方で、各国のお国柄を感じる事ができ、国際大会とは良いものだと思っただけのかもしれませんが、あえて述べさせていただきます。

今年の大会のメイン会場はソフィテルホテルでしたが、私はヘリテージホテルに泊まりました。同じ大阪から参加された、IPBAの先輩であります豊島先生から、ソフィテルホテルを全日程にわたって予約することが無理であり、最初ヘリテージホテルに泊まって途中からソフィテルホテルに移られるとお聞きました。私は、途中でホテルを替わるのも面倒くさいし、ソフィテルホテルまではタクシーで5分、10分で行けるであろうとの判断で、全日程にわたってヘリテージホテルに宿泊することにしました。ヘリテージホテルの部屋自体は、若干古そうではありましたが、広々として、ベッドもキングサイズでした。また、朝食も付いており

ました。4月28日から宿泊しましたが、当初は申し分ありませんでした。ところが、ウエルカムレセプションとその後のジャパンナイトが終わって帰った4月29日の深夜、何故か、浴室やミニバーの前の床が濡れているのです。どうしたものかと調べると、何と、天井から水が一滴一滴としたり落ちていたのです。それで、急遽、部屋を替わらざるを得ないはめになってしまいました。もちろんポーターがスーツケースやハンガーに掛けていたスーツ等を運んでくれましたが、私自身も、ラップトップパソコンや貴重品の入った鞆を抱えて、深夜、ホテルの中を移動したのです。幸い、さらに上の階に移り見晴らしも良くなり、また、広々した部屋がさらに広々となりましたが、深夜に替わったのでホテル内の連絡が取れておらず、翌日の朝には、昨日はもらえた日系の現地新聞が配達されませんでした。ちなみに、部屋には小さな蟻が出没したのですが、これは部屋を移っても変わりませんでした。そんなこともあって、あまりよく眠れず、4月30日は朝遅く起きてしまいました。しかし、前日、国谷先生から、アロヨ大統領は12時くらいに来られるらしいとお聞きしていましたので、それでも十分間に合うかなと思って、11時40分頃でしょうか国際会議場に到着しました。ちょうど三宅先生をお見かけして、良かった間に合ったと思いましたが、三宅先生からは、何とアロヨ大統領は既に国際会議場を退場されたと、フィリピンはこういうお国柄だからとお聞きすることになってしまったのです。京都／大阪大会では、メイン会場で全員を引き受けることはできないので、どこのホテルを選択するか、そこからメイン会場までの移動手段をどうするか検討しなければならないと思うと同時に、日本らしさとしてスケジュールはきっちり予定通りこなさなければならぬと思いました。

日本には5月2日の日に帰ったのですが、5月3日から下痢になりました。生水は飲んでいないはずなので、何が原因かと振り返って考えると、思い当たるのが1つありました。5月1日フェアウエルパーティーが始まる前に屋外で、勧められたパロパロを食べたのですが、そのパロパロの中に砕いた氷が入っていたのです。日本では大丈夫だと思いますが、やはり衛生面は十分注意しなければと思った次第です。

ここまで書くと、IPBAの年次大会は困ったものだったか、フィリピンは困ったものだと誤解する人もいるかもしれませんが、感激したことを述べさせていただきます。まずは、さすがにIPBAで、環太平洋地域に興味のある人が参加しているからでしょうが、アメリカ人もヨーロッパ人も何人も、私のような拙い英語を話す者にも、気さくに声をかけてくれて、会話の相手をしてくれました。参加したことがないので分かりません

が、IBAやAAAの年次大会では、このようには行かず、会場の隅で取り残されているのではないのでしょうか。

また、フィリピンではトラブルもありましたが、他方で、多くのフィリピン弁護士が、とても歓待してくれました。特に、5月1日のフェアウエルパーティーでは、開始前の屋外でのイベントから色々話かけてくれたり、椰子の実や前述のパロパロを勧めてくれたりしました。また、フェアウエルパーティーのテーブルでは5人のフィリピン人と同席になりましたが、特に隣に座ってくれたXaiverさんは、同僚のBartolomeさんと揃って、賢そうで、美人で、とても楽しい時間が過ごせました。お二人とも、仕事があって、途中で帰られたのは残念でしたが、フェアウエルパーティーが終わってからも、写真の美女二人と話し込んでしまいました。1人は、お父さんがCI Arbのフィリピン支部長をされているValderramaさんです。彼女は学生で、今度司法試験を受けるとのことでした。もう1人はMoralesさんで、お父さんがかつてアンダーソン毛利で勤務した経験があるとのことでしたが、事務所に子供を入れてはいけないというポリシーがあるとのこと、訟務検事のような仕事をしていらっしやるそうでした。なお、写真を撮ってくれたのはMoralesさんの弟さんで、今度司法試験を受けるとのことでした。気がつく、フィリピン弁護士のスタッフ以外には我々4人しか残っておりませんでした。幸いバスが2台残っており、1台を私専用で使用させていただき、無事、前述のヘリテージホテルまで帰ることができました(ちなみに、もう1台はフィリピンの伝統舞踊を踊られたダンサー達を乗せて帰って行きました)。なお、大阪に帰ってからの話をすると、せっかくだから彼女達と2次会に行けば良かったのと言われましたが、シャイな日本人男性としてお誘いすることができませんでした。それはさておき、フィリピンの弁護士は、英語ができるだけでなく、非常に、親切でした。京都／大阪大会において、関西の弁護士が、英語の問題もあり、あのように外国人を歓待できるか若干懸念が残りました。

ちなみに、フィリピンの女性弁護士だけでなく、フェアウエルパーティーのテーブルには、台湾の美人女性弁護士も座っておられました。奇遇にも、彼女は、当事務所の根岸哲神戸大学名誉教授の神戸大学教授時代の教え子であったのです。ついですが、このテーブルにはおられなかったのですが、私があるセッションに遅れて入室したときに親切にもハンドアウトを渡してくれた台湾弁護士も美人でした。こんな話ばかり書くと、ポリティカルコレクトネスに反していると叱られるかもしれませんが、ある意味日本的

慣行としてご容赦下さい。なお、フィリピンの男性弁護士が、私に対して、美人と仲良くなったか尋ねてきましたので、フィリピンの慣行も日本と同じようなものかと納得したりしました。ただ、京都／大阪大会においては、やはり国際大会として、ポリティカルコレクトネスには注意して、むしろ、アフーマティブアクションとして、日本男児が外国人女性を歓待しなければならないのではないかとも思いました。



撮影:小林 和弘

IPBA、お気軽に!

IPBA At-Large (Osaka)

児玉実史 (北浜法律事務所)

今回のマニラ行きは、発表もなく、原稿提出もなく、お気軽に行き、マンゴー食べてセブでダイビンググ・・・のはずだった。

しかし、サブプライム問題とリーマン・ショックは、IPBAにも思わぬ影響を及ぼしていた。マニラに出発する2日前、私の属するIPBA倒産委員会の委員長のWendyから、ヒョン、と1通のメールが舞い込んだ。「ハイ、マサフミ、日本からのスピーカーが、新件の更生事件でどうしても来られないって言うんだけど、代わりにスピーカーやってくんない?」

この軽いメールによって、私のお気軽フィリピン旅行は、俄かに慌しくなった。旧知のWendyの頼みでもあり、日本からスピーカーがないという事態も捨て置けない。「ヘイ、倒産弁護士はどんな急な頼みでもnoって言わないと思ってんだろ?」努めてお気軽な返事を書いて、「送信」をクリックするや、私は鼻から

大きく息を吐いて、バタバタと文献集めに取り掛かった。

トピックが、「各国倒産法の最新論点」的なものだったのが不幸中の幸いで、資料をマニラ行きの飛行機で読み、マニラに着いてからは宴会の3次会以降はガマンして、発表の準備は何とか間に合った。セッションで、私は、DIP型会社更生、事業再生ADR、不動産担保権者の債権カットを前提にした再生計画、の三題漸を報告し(オチまではつけられなかったが)、お隣の韓国でも倒産ADRに力を入れ始めているという報告があったので、それぞれの比較もできて面白かった。

発表が終われば、またお気楽モードである。マニラは初めて訪れたが、マンゴーは聞きしに勝る、実に感動の美味さであった。ただ、今回は、夜間外出は自粛を余儀なくされた。事前にネットで「マニラの治安情報」を調べたところ、「夜の一人歩きは自殺行為」といった刺激的な警告にいくつも出くわしたし、現地に入ってレセプションで話をした韓国の弁護士たちは、タクシーに分乗して夜のマニラに繰り出したものの、1台だけ遠回りをされて高い金を請求され、喧嘩腰の言い合いになったとボヤいていた。かくなる状況下では、インドや東ティモールを一人でぶらついていた私も、さすがに単独行動には踏み切れなかったのである。

それでも、最後に少しだけどうしても街を見たくなり、ホテルをチェックアウトして空港に向かうときに、ホテルタクシーに頼んでぐるっと市街を回ってもらうことにした。

旧市街から、かのマラカニアン宮殿に車を走らせてもらった。私の脳裡には、まだアキノ氏(元大統領の夫)の空港での暗殺、ミュージカル「ミス・サイゴン」と真逆な感じの「独裁者」マルコス一家の脱出劇、そしてイメルダ夫人の「靴 3000 足」などの映像が鮮明に残っており、その現場をどうしても訪ねたかったのである。

タクシーの運転ちゃんに、「マルコスが亡命してハワイで亡くなったって聞いてるけど、奥さんは今もハワイにいるの?」と聞いてみた。すると、「いや、もうフィリピンに戻ってるよ」という。迂闊。知らなかった。タクシーはマラカニアン宮殿近くの小さな川を渡る。雨風さえしのげるか疑わしい無数の家が、辛うじて支えられているといった風情で川に張り出している。「これまで大統領は誰が良かった?」答えは、なんと、「マルコスが一番良かった。」お気楽外人旅行者の私は、予想外の答えに少し慌てて、「何で?」と尋ねた。すると、「マルコスは、どんどん建物を建て、街がきれいに活発になった。マルコスのあと、新しい建物を建て

る計画が立たない。建物は古くなり、自分の暮らしは良くなる」という。

そんな話をしていると、いきなり警官に車を止められた。まさかマルコス美化の話をしたのが聞こえて咎められるのか??と、やや突拍子もない想像をしながらドキドキしていると、警官と運転手がやりあい始めた。タガログ語(?)は分からないが、運転手の話の雰囲気は、どうも、「ダンナ、そりゃないわ。皆OKちゃうん? たまらんわ、堪忍してえな」と言っている感じである。2-3分やりあって、埒があかないと見るや、運転手はサッとポケットから20ペソ札を取り出し、警官はそれを受け取るとスッと引いていった。

車を発進させた運ちゃんと言う。「ここは右折OKで、前の車も行ったのに、急に右折禁止と行ってきやがった。」贈収賄の現場を見てしまった私は、少し遠慮がちに聞く。「ホテルタクシーだからか?」「イエス。外国人を乗せてるから狙い打ちだ。」

あの輝かしい民衆革命はなんだったのか。もしかして、マルコス政権は特権階級が富を独占したが、ある意味中世ヨーロッパのように、その富で国づくりもしたということなのか? アキノ政権以降、富はもう少し広い範囲まで配分されるようになったが、そこで消費し尽くされ、貧困階級は取り残されたままだ諦めているだけなのか? ...誤解かもしれないが、ふとそんな思いが頭をよぎった。

セブをしっかり経由し、日本に戻って2ヵ月半。今の大阪は、あのと時のマニラより暑い。そんな金曜日の夕方、IPBA事務局から、ヒョン、と1通のメールが舞い込んできた。「IPBAのニューズレターのボリュームが足りないのでは、お忙しいと思いますが、来週中ごろまでに原稿書いていただけませんか?」...ハバちゃん、またそんな気楽に言わないでよ~、と思いつつ、私はこの原稿を、ディープ大阪こと大阪南部への往復の電車内で書いている。

でも、これでいいのだ。思い起こせば、初めてIPBAに参加したのは1994年シンガポール。そこで初対面なのに気軽にしゃべっていただいた元原先生も、濱田先生も、気がついたら最高裁。国谷現副会長の令夫人とお話をする機会を得たのも、このときだけだ。IPBA大会に続けて出始めたのが留学後の2001年。すぐ倒産委員会でスピーカーをやったと思ったら、副委員長になり、任期が終わったら今度は大阪選出拡大理事である。気軽に顔を出しているうちに、日本や世界の一流弁護士の集まる輪の、結構真ん中辺にいたりする。この気軽な感じが、IPBAなのだと思う。

もう乗り換えの天王寺駅が近い。こんな輪に気軽に

引っ張り込んでくれた方々に感謝しつつ、また後輩各位には、お気軽にちゃぷん、と輪の中に飛び込んでしまっただけを願いつつ、筆をおき...いや、文書を保存し、愛機「LET'S NOTE」のフタを閉じることとしたい。...そうそう、2011年の大会は京都/大阪なので、お気軽に飛び込んでいただくには絶好の機会だと思います。2010年シンガポールも含め、ぜひお気軽に!【上書き保存】【終了】



Big Issue

弁護士 中山 達樹 (三宅・山崎法律事務所)

昨年のロスに続いて2度目の出席。まだ日本 delegate の末席を汚しているのみだが、ボス三宅に命じられるがままに初参加し、日本人特有の卑屈な愛想笑いを繰り返して右往左往していた昨年と違い、今回はずいぶん楽しめた。

■ 参加理由

参加理由は3つ。こういう機会がなければフィリピンに来ることもないだろう。そんな好奇心がまず1つ。

2つ目は、今年夏からのシンガポール留学を控え、外国人に伍してゆける語学力と人格の形成のため。これは「人脈形成」とも言い得ようが、何でも仕事やお金に結び付けるかのようなニュアンスも感じるこの言葉には、若干の俗臭と抵抗感を感じる。自分の人脈として相手を利用しようとする卑しい心性では、ロクな人脈は築けまい。真の人脈とは、利用し/利用される関係を言うのではなからう。

要は、向上心への再点火。運よく司法試験に通っただけで、世間のことを何にも知らないクセに、若くして「センセイ」と呼ばれて天狗になって、安くない給料をもらっているだけで傲慢になって、ふんぞり返ってエラそうにしている若手弁護士(ないしは私の人格の一部分)を私は烈しく唾棄する者であるが、この大会では、英語力も何もかも、自分を遥かに凌駕する弁護士を多く目の当たりにする(去年のロスでは、自慢の腕相撲でオランダの Pieter に完敗したし!)。そのため、大会への出席は、傲慢な若手センセイの天狗の鼻をへし折ってくれるのに十分な機会となる。そんなところに顔を出して屈辱感と危機感と焦燥感を味わい、一つ謙虚になる。男なら(女でも)こういうところに投資しないとイケない。

3つ目は、激務からの逃避。登録4年目(58期)の駆け出し弁護士として、仕事に追われる毎日。特に自分は、休息が必要と分かっているが、つい休日にも休まず仕事をしてしまいがち。そこで、IPBA 出席という大義名分を利用し、しばしの休息を味わおう。

■ そもそも IPBA とは何?

弁護士の国際組織としては他に IBA もある。改めて IPBA の存在意義を問うてみたい。International を冠して全世界を対象にするか、Inter-Pacific という限定地域を対象にするかという地理的な違いではあるまい。IPBA の役員には欧州人が就いている。

IPBA 創設者の我がボス三宅に尋ねたところ、「個人と個人との間の密な交流の有無」。IBA では、日弁連等の組織が前面に出る。一方、IPBA はさにあらず。そうか。IBA と IPBA、頭文字では P があるかないかの違い。私はここに「Person がいるかいけないか」「Personal relationship が築けるか否か」という意味を持たせたい。

個人間の交流という文脈では、7月に予定している私のロンドンでの語学研修中に、事務所訪問を快諾してくれた Lawrence。去年もミヤケ・ナイトで歓談したのがよかったか。毎年出ないと IPBA 大会のよさは半減する、つまり人的交流の機会は格段に減ると思われる。また、西田敏行のような声で流暢な日本語を駆使する、アロハを着たベガスの美髯オヤジ Wilbur 氏も印象的であった。マニラで絞首刑になった山下奉文大将の「山下財宝」にまつわる逸話などを教わる。さらに、米国の才媛 Caroline の agreeable な笑顔は、ある女性との入籍を検討している私をして婚姻届への捺印を躊躇させるに足る十分な魅力を蔵していた。

■ マニラ観光

3時間のマニラ観光を森口先生に誘われる。マニラ観光をする機会など、一生にあるかないか。この機会を逃しては一生マニラ童貞で終わるかも。会議出席を放逐し、二つ返事で参加。

スラム街という言葉では生温い、「貧民窟」が最も印象的であった。川べりと言うか、川面に密集する掘っ立て小屋。なぜ川にあるか? それは川をトイレとして使用するから。鼻腔を離れぬ形容し難き異臭。これは Big Issue だ。

貧民窟の住民が #2 を新聞紙に包み、川に投じる。それを flying saucer と言うらしい。ずいぶんクサイ円盤もあったもんだ。

Intramuros にある Fort Santiago。WWII の銃弾により形成された壁の銃痕が生々しい。沖縄をはじめとする日本にも、壁に残る銃痕はそうは見かけない。歴史はいつも凡夫をして背筋を正させる。

フィリピンの歴史は要するにスペイン等の他国に侵略された歴史。他国民の歴史を歴史として持つ国。一方、我々が日本は、自国民である日本人の歴史を歴史として持つ。そんな日本に生まれた誇りと幸福を改めて感じさせられた。

■ ゴルフトーナメント

私は新極真会空手の指導員として週末は空手の指導をしているが、聞けば留学先のシンガポールには私の所属する空手団体が無いらしい。たしかに赤道直下の南国に空手は似合わない。そこで、これを機会に興味を増やそうとゴルフを始めて数週間。超ビギナーのため、大会後の恒例トーナメントに「みそっかす」として参加させてもらった。練習場に数回通ったのみで初のコースデビューが三宅夫妻と原会長とのラウンド。大先輩を前にナイスショットを放てというのが無理な注文。しかしよき精神修養になった。

楽しかった光景の一つ。山あり谷ありの難コースに皆がストレスを嵩じさせていた矢先、三宅のカートがスイスの Urs 弁護士のカートと行き交う。すれ違いざま、三宅が Urs 氏に問う、"Are you playing golf?" Urs 氏すかさず哄笑し、"No, I am just looking for balls!" 当意即妙な会話に、ストレスが一気に霧消する。

シンガポールではゴルファーとしても成長した姿をご覧に入れ、きっと皆様をギャフンと言わせてやりたい。まずは打倒 My Boss!

■ セブ島リゾート

大会そのものとは関係ないが、大会後に三宅夫妻及びシンガポールの Suresh 夫妻とセブ(マクタン島)でリゾートを満喫。部屋の目の前は美しきラグー

ン。朝4時に起床し、寝汗を流すのにシャワーを浴びようと思ったが、外はまだ真っ暗で誰もいない。見上げれば、降るような星空が私を誘う。なぜシャワーの蛇口をひねる必要が？

素っ裸で目の前のラグーンにダイブ。生まれた時の姿のままで海水に浮かび、星空を仰ぎ、天の川の下で、流れ星に撃たれながら、自問自答を繰り返す。俺はこれでいいのだろうか？ これから何をすべきなのだろうか？ There is more to life than winning in the rat race.

■ 今後の日本 IPBA

ミスターIPBA・三宅も今年で古稀。2度の大会に出席して感じたのは、「三宅以後」の日本 IPBA。「ジャパン・ナイト」がそのまま「ミヤケ・ナイト」に雪崩れ込むこれまでお馴染みの光景を、今後も長くは期待できない。「ハラ・ナイト」ないし「クニヤ・ナイト」に移行してミヤケイズムの継承を図るか、それとも…

奇兵隊開關総督・高杉晋作は詠った、「面白き こともなき世を 面白く」。IPBA 開關総督・三宅はきっと我々若者に期待している、「面白き IPBA をもっと面白く」。若い世代の一員として、IPBA の精神「スピリット・オブ・勝浦」を継承する使命感を持ち、今後も微力ながら IPBA の発展に尽くしてゆきたい。IPBA が我々に何を与えてくれるかではなく、IPBA の発展のために我々が何をできるか。何をすべきか。

大事なものは、若い世代の積極的参加。私も勧誘に務めているが、まだ勧誘の成果は上がらない。自らが楽しまなければ、人を楽しませることはできない。まずは自分が IPBA をもっと楽しまない。

来年のシンガポール大会では、私はシンガポール国立大学のLLMに留学中。きっと成長した姿をお目に入れますので、刮目してご覧あれ。See you in Singapore!



弁護士 許懷儷（萬國法律事務所）

今年3月にみんなでIPBAに行くかどうかを話し合っていましたとき、開催場所がフィリピンのマニラですので、一度もマニラに行ったことがない私にとっては、新聞や雑誌の記事から、マニラはかなり安全ではないところのようであると思われました。特にホテルの周辺には銃を持った衛兵が警備していると聞いており、怖いような感じがしました。それで、IPBA に参加するにつけ、私は長い間思慮を重ねた末、今回参加することに決めたのです。

IPBA に参加するのは今回がはじめてです。マニラの安全問題につき懸念を抱いていたのですが、実は心の中では大いに楽しみにもしていました。出発時、まだ迷っていましたが、マニラに着いた後、マニラの安全問題は新聞や雑誌で報道されているように怖いものではないと感じて、安全への懸念が解けて、気持ちが少し楽になりました。

印象的なのは、今回主催機関がフィリピン大統領を Opening Ceremony に出席し、且つ挨拶するよう招請したことであり、フィリピンが IPBA 国際会議を重視していることが感じられました。IPBA の活動では、たくさんのコースが開催されていました。例えば、仲裁、M&A、税法、海商、Antitrust、労使問題等さまざまなテーマです。各自に興味があるテーマを選択、参加させ、各国の異なる法律規範及び実務経験を勉強させるものでした。

勉強会の以外、主催機関が食事会も用意しました、おいしい食べ物のほか、フィリピンの現地の舞踊ショーもあり、そのショーを通して更にフィリピンへの認識を深めることができました。

IPBA に参加して得た最も大きな収穫は、コースにおいて各国の関係法律規範と実務経験を勉強したほか、また更に重要なのが世界各国のたくさんの弁護士たちと知り合い、互いに意見と経験の交流ができ、今回の IPBA の活動内容をより一層豊かにしたことです。

楽しい時間の経つのは早く、会議はすぐに閉会となりましたが、各自帰国する時が来ても、みんなは別れを惜しみながら、互いに次回の IPBA にも参加し、また会うと約定しました。



発行日 July 24, 2009

私は、台北へ帰る飛行機の中で、IPBA に参加してよかった、本当にたくさんの収穫を得た、これからも必ず IPBA に参加したいと思っていました。

以上

*許先生はジャパン・ナイトに参加下さいました

Suresh Divyanathan **Drew & Napier LLC (Singapore)**

The 19th Annual IPBA Conference was held in Manila, Philippines, from 29th April to 2nd May 2009. Some IPBA members were initially concerned about the organization of the conference when little was heard about the conference details even in January 2009. However, I am happy to report that those fears were unfounded as the conference itself proceeded smoothly and everyone who attended was reasonably pleased.

The conference venue was the Sofitel Philippine Plaza Hotel which is a relatively new hotel built on reclaimed land, facing Manila Bay. The Welcome Reception was scheduled to take place in the gardens by the hotel swimming pool, giving a nice view of Manila Bay by sunset. However, due to inclement weather, the Welcome Reception had to be moved to the hotel ballroom indoors. That change of venue mattered little in the end because the highlight of every welcome reception is seeing old friends again and meeting new friends amongst the IPBA delegates.

Filipinos are well known for their artistic and creative skills, especially in the performing arts. It was therefore no surprise that at every dinner during the conference, there were professional singers and cultural performances. In fact Mr. Jimmy Yim S.C. (delegate from Singapore) and his wife Mrs. Cynthia Yim (herself a Filipino), wasted little time in joining the band on the stage of the Welcome Reception and singing a few songs to everyone's delight.

Those of us who have close friends amongst the Japanese IPBA delegates know that one of the highlights of every Conference is the IPBA Japan Night that takes place after the Welcome Reception. I imagine that in the early years it would have started out as a group of Japanese lawyers wanting to continue drinking and chatting after the official Welcome Reception. Nowadays, it has grown to an organised after-party with good food and free flow of alcohol paid for by our very generous friends from

each conference's Japanese delegation.

The recent Manila conference was no exception as Japan Night was held at one of the hotel's larger meeting rooms with a wonderful buffet spread, fine wines and fresh beer. The Japanese delegates and their invited close friends (which I am grateful to be part of) had a very good time and continued our festivities well into the night. At one point, the Chairman of the 2011 IPBA Conference in Kyoto-Osaka, Mr. Shiro Kuniya, jokingly complained that the organizers of the 2010 IPBA Conference in Singapore had stolen a march on him. As the site of the Kyoto Protocol, Kuniya-sensei was intending to make climate change the 2011 conference theme but Singapore had already chosen that topic for the 2010 conference theme. In addition, Kuniya-sensei was intending to invite Al Gore to give the keynote speech in 2011 but the organizers of the 2010 conference in Singapore had already secured Al Gore for their conference! Be that as it may, Kuniya-sensei is a very dynamic and resourceful leader and none of us had any doubt that he would be able to find another interesting conference theme for our 2011 conference in Kyoto-Osaka.

Japan Night was so successful that even after the hotel closed the meeting room and withdrew all their service staff, about 10 of us, including Mr. Nobuo Miyake and Mr. Shiro Kuniya, simply sauntered over to the lobby bar for another round of drinks and dancing, well into the early hours of the morning!

Over the course of the next two and a half days, the Manila Conference proceeded well. Some highlights include the keynote speech by Philippine President, Mrs. Gloria Arroyo and the professional dancing partners at the conference dinner on Thursday night. About 20 young and highly skilled professional dancers were available as ballroom dancing partners for the conference delegates after the dinner on Thursday night. IPBA President Mr. Gerald Libby (U.S.A.), clearly enjoyed himself when was serenaded by the very beautiful and talented singer and subsequently slow-danced with her. Mr. Libby couldn't resist quipping "It's great to be President!"

One conference session which garnered a lot of interest was the Dispute Resolution Committee's session on Electronic Discovery. Many lawyers in Asia who deal with international disputes have heard of or personally had bad experiences with oppressive discovery orders made by U.S. Courts. Such orders

have become exponentially more costly and time consuming where electronic devices are concerned because the contents of every desktop computer, laptop and mobile phone used by a company could potentially have to be given over to the opposing party in discovery. This conference session was so popular that all seats were taken up with standing room only at the back.

The Manila Conference farewell dinner was another lively affair with a fireworks display and the Filipino delicacy “balut” on offer for those brave enough to try it. Balut is a boiled fertilized duck egg with a nearly developed embryo inside. The trick is to not look too closely at the embryo inside when you’re eating it! After dinner, the cultural performances included the singkil dance where 2 long bamboo poles are held near the dancers’ feet and you have to step correctly to the music to avoid having your ankles squished when the bamboo poles are clapped together. Once again, IPBA President Mr. Gerald Libby and President-Elect Mr. Rafael A. Morales were invited to try the singkil dance, followed by other delegates.

As we bade farewell to Manila and the old and new friends we have made there, we look forward to the next IPBA Conference in 2010 in Singapore. Our Organising Committee is aware that many IPBA members have been to Singapore many times and it is therefore important to organise a conference involving new and unique experiences in Singapore. We have therefore chosen to hold the conference at the new Marina Bay Sands Resort which is a luxury hotel and casino complex that will open at the end of 2009 in Singapore’s new business district. One conference dinner will also be held at the Istana which is the official residence of the President of Singapore. Keynote speakers who have been confirmed for the 2010 Conference include Singapore’s Minister Mentor Mr. Lee Kuan Yew and former U.S. Vice-President and Nobel Peace Prize winner, Mr. Al Gore. You can find out more about the 2010 Conference on our website at www.ipba2010.org and we hope to see all of you in Singapore next year for what promises to be a very exciting conference full of new experiences, even if you have been to Singapore many times before. See you in Singapore!

(了)

～IPBA 日本国会 今後のイベント～

10月1日(木) @大阪
シンポジウム及びリセプション

10月2日(金)
会場:シンガポール大使館
シンポジウム(及びリセプション)

10月3日(土) @東京
第29回 IPBA Japan Cup

各イベントの詳細については決まり次第、随時ご連絡いたします。皆様のご参加をお待ちしております。



INTER-PACIFIC BAR ASSOCIATION
20TH ANNUAL CONFERENCE
APRIL 30 – MAY 3, 2010
SINGAPORE

IPBA 2010
SINGAPORE

CONFERENCE THEME
CLIMATE CHANGE

IPBA 2010 Singapore Conference
Conference Registration Manager
Pacific World Singapore Pte Ltd
73 Bukit Timah Road Unit 03-01 Rex House
Singapore 229832
Tel : (65) 6330 6730
Fax: (65) 6336 2123
Email: ipba2010@pwevent.com
Website: www.ipba2010.org